

令和5年度第1回 川崎市社会教育員会議幸市民館専門部会 摘録

日 時 令和5年6月29日(木) 午後2時～午後4時30分
場 所 幸市民館 第1会議室
出席者 浦山委員、梅原委員、大塚委員、片岡委員、柴田委員、夏井委員、松井委員
欠席者 小泉委員
事務局 加藤幸市民館長、鈴木日吉分館長、松本社会教育振興係長、松下管理担当係長
説明者 教育委員会事務局生涯学習推進課 鈴木課長補佐

1 開 会

2 館長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議 事

(1) あたらしい幸市民館・図書館を考えるワークショップについて

～生涯学習推進課から第1回から3回目までの開催概要について説明～

【質疑応答】

大塚委員 2回目まで参加して3回目は欠席したのだが、3回目で出た代表的な意見はあるか。

生涯学習推進課 一例で言うと「屋上緑化」というキーワードが出て、そこからボランティアが管理する「屋上庭園」を造ってみてはどうかという意見があった。図書館に関しては声を出して良いスペースと静かに本を読みたいスペースとに分けて子どもたちが声を出ることが出来る自由な部屋があっても良いという意見もあった。

夏井委員 幸市民館・図書館の整備はいつくらいの時期で、どのような程度のを予定しているか決まっていれば教えてほしい。指定管理者制度との絡みもあるし、ワークショップで出た意見も建物が新しくならないとできないことも多い。

生涯学習推進課 現時点では具体的に決まったものは無い。老朽化対策をしていくにあたり、どのような形で整備していくか予算的な制約もある中で教育委員会、総務企画局とで最大限、ワークショップの意見等を反映できるよう検討していきたい。

松井委員 ワークショップで将来こうあれば良いという意見は分かったが、今すぐにでも変えたい問題や今の状態でも変えられる問題もこの意見の中には含まれているのか。5年、10年先でないと変わらない問題なのか今の段階でも検討して進めていける問題なのか。飲食の可能なコーナーは、それほど時間をかけなくても実現できると思うが、小さい子どもが声を出して遊べるスペースは子育て中の親が望んでいる部分かもしれないので、いつこれが変えられるか分からないというのではなく、今の状態でも変えられる問題というものも併せ持って考えていけると良いと思う。

生涯学習推進課 ワークショップ自体は新しい市民館・図書館を造るうえでの参考としているものではあるが、運用面で解決できるものは市民館・図書館と情報共有していければと思う。

(2) 前回専門部会の摘録について【資料1】

浦山議長 委員からの疑義無し。内容について参加委員から承認された。

(3) 管理運営・実施状況等について

事務局から【資料2】に基づいて説明

【質疑応答】

梅原委員 Wi-Fiの設置状況についてどうなっているか。

事務局 Wi-Fiについては3月に工事を実施。会議室等については有線LANの使用が可能となった。教育委員会から用意された無線のWi-Fiのルーターを貸し出しして室内であれば無線でWi-Fiが使える状態になっている。受付の職員に申し出ればセットするし、体育室、第4会議室ともに使用可能である。

浦山委員 各部屋とも有線の差し込み口があり、そこに3台のルーターを貸し出ししており、当日申請書を受付に提出すれば使用可能ということよろしいか。

事務局 その認識で間違いない。

夏井委員 ルーター3基の申請が重なったことはあるか。または重なった場合はどうするか。

事務局 今までのところ、重なったことはない。重なった場合は先着順となるが、無線がなくても有線での利用が可能な状態にはなっている。

(4) 社会教育振興事業について

ア 幸市民館社会教育振興事業

イ 日吉分館社会教育振興事業

いずれも事務局から【資料3-1】、【資料3-2】に基づいて説明

【質疑応答】

梅原委員 昨年度は市民館の「幸文化センター祭」と日吉分館の「さくらフェスタ日吉」が同日開催になっており、やりにくいところがあったが今年度はどうか。

事務局 今年度は日程が重ならないよう開催する予定である。

夏井委員 市民自主学級の「吾妻鏡から川崎地域を読み解く」は前回の委員の意見を反映して、吾妻鏡と幸区を関連付けて講座を開いており、多数の応募がある人気講座になっているようで良かった。

浦山委員 市民館のもう一つの自主企画である「親子で学ぶキャンプと防災」は残念ながら雨天開催になってしまったようであるが。

事務局 応募多数で抽選になったが当選者のグループも3組が雨天を理由に当日キャンセル連絡があった。多くの落選者も出る中で、せっかく当選した1家族(枠)であるが、主催者側と当選者側と重みのズレが出てしまったと感じている。

浦山委員 趣味のキャンプだけでなく、災害と結び付けて役立つ講座にしてほしいという委員の意見があったと思うが、こちらもそれが反映されたものになったのではないか。日吉分館の自主企画事業の「まちのお茶の間事業」はどんな感じか。

事務局 テーマが前回の「まちのテーブル」に類似している点、世代間交流という点が委員から課題として出ていたと思うが、提案者とは1回の開催の中で全ての世代を呼び込むのは難しいと考え、今年度は1回ごとにテーマを絞ってその中でまずはコミュニティ作りをしてもらい、今後それをどう多世代交流に繋げていくか一緒に考えていくこととした。今年度だけでなく来年度以降も見据えて講座作りをしていく方向になっている。

浦山委員 ぜひ職員が各テーマで作られたコミュニティを連携させていくサポートをしてほしい。団体側だけでなく全体が見える職員でないと、なかなか連携していくことは難しいものだと思うので。

(5) 審議テーマについて

浦山委員 まずは各委員から出してもらった地域が抱える差し迫った課題について順番に説明してもらい、皆で共有したい。その後、質問や意見交換をして、今後の進め方について考えていきたい。具体的に次回の9月25日までに何を準備していくかを話し合っていきたいと考えている。今日を含めて残り4回で2月までに報告書をまとめる必要があるため、全体スケジュールからやるべきことを確認していきたい。

～「地域課題等への委員意見」の資料に基づき各委員から説明～

【意見交換】

片岡委員 幸区の特徴は皆さんが出してくれた課題から見えてきたところがある。マンション、集合住宅に住んでいる若い働き手、親子連れが増えている一方で高齢化も進んでいる。新しい移住者も増え、長くいる住民との繋がりも希薄であり典型的な都市化した地域と言える。市民館がそこにどう関わりを持つかが問われていると思うが、これまでの市民館の事業だけでは、その状況に対応するのは難しくなっている。今までは地域の繋がりを前提として市民館の事業は実施されてきたところがある。市民館だけでなく民間の活動とどう繋がるかを新たに考えていく必要がある。1人暮らしで満足している人もいる一方で孤独を感じている人をどう救済するか、不登校も悪いことでは無いのだが、そうした子どもたちに、地域がどういった受け皿を持っているか考えなくてはならない。単身者が増

えているのも現在の傾向で、かつての地域社会を取り戻すことは難しい。現状に即した形で何が足りないのかを考えていかなければならない。

大塚委員 課題については、市民館・日吉分館に関係するもの、審議テーマのサブタイトルに寄せたものに今回はもう少し絞って取り上げてはどうか。前回は課題の範囲はまずは狭くせず広くした方が様々な意見も集まりやすいという話ではあったが、課題に対しての対策を議論するうえで、課題はもう少し整理した方が良いと個人的には感じる。もちろん進め方は色々あると思っているが。

松井委員 皆で手を繋いで仲良く市民館に足を運ぶと言う時代ではなくなっている。1人で行く人もいれば、繋がりを求めない人もいる。特に若者にはその傾向があるのではないか。多様性の時代で、人を広く見る必要があり、新しい切り口で市民館良さをアピール、利用を促すことを提案できたら良いと思う。一方で、寂しくて困っている人もいるわけで、市民館に行くのは何も立派なところに行くということではなく、困っている人も安心して行ける場所だと感じてもらえれば良いと思う。

夏井委員 審議テーマが「笑顔と多様な夢を育む学び舎を目指して」となっている。社会教育であるから学ぶ場である。「学び」を通した「人・つながり・地域づくり」にしていかないと市民館のやることと離れてしまう。学ぶ場所は提供する場合もあれば、提供を受ける場合もある。相互にできる場が市民館であり、それをコーディネートしていくのが市民館職員であると思う。全て与えられるものではなく自ら進んで実施していく時代。ただ、市民館は敷居が高いと感じている市民もいると思うので、例えば「会議室」ではなく「フリースペース」があって気軽に立ち寄って、多くの選択肢があるような市民館であれば、「笑顔と多様な夢を育む」というところに繋がっていくのではないか。

片岡委員 市民館と地域の住民が取り組んでいることが別々のものではないというのが前提で、市民館が出来ること、出来ないことを明確にしてまとめていく方法が良い。そのためにはまず地域の課題を知らないといけないということで今は情報を共有している段階。悪いことではないが、単身世帯や不登校の増加による孤立や孤独といった地域課題を視野に入れて最終的には市民館の学びを作り直していく必要がある。単身で生活している人を無理やり市民館に誘導するというわけではなく市民館の学びが、そういった人を視野に入れた学びになっていくことが大事。

柴田委員 市民館の名称は知っていても実際にどんなことが出来るのか分かっていない人は非常に多いと思う。学び舎として各々が自由な方法で、誰もが安心して利用できる市民館にするにはどうしたら良いかを考え、市民館のことをあまり知らない人たちにも市民館に足を運んでみようと思えるようにしていけたら良い。4月に宮前区から幸区に戻ってきたが、登校時間に小学生だけでなく中学、高校生

でも挨拶をしてくれる子が幸区はとて多い。周りに単身者のアパートやマンションもあるが、何度か会ううちに向こうから挨拶もしてくれる。親御さんの話からも誰かと繋がりたい親子も多くいると感じる。人と繋がりたい人が他地域より多い点なども記載できたらいいなと思っている。

浦山委員 夏井委員が章立てまで考えてくれているので、この章立てに合わせて報告書を作成していきたい。思考のプロセスについては片岡委員が3段階の視点を入れてくれたので、章立てのどこかに入れて展開していく。各委員から今回提出された課題を章立ての中に入れ込むのは私がやるので、流れなどに問題点が無いか、夏井委員、片岡委員に確認してもらいたい。次の部会でそれを各委員に見てもらう。全体で眺めて改善点等ないか皆で議論、整理する。その後、各章の受け持ちを分担する。報告書として通しのシナリオが完成しているので、分担しても方向性が外れることは無い。

大塚委員 分担する箇所も得意、そうでない箇所もあるので、やりにくさを感じる委員もいるのではないかと。各委員がそれぞれ違う課題を出しているのに対して1つずつ各々で対策や提言をしていく方法もあると思う。

浦山委員 その方法だと各委員がバラバラに出してきた課題と対策をまた一からまとめ直していく必要がある。時間がかかり過ぎて大変でうまくいかないと思う。

夏井委員 「幸市民館・日吉分館の学級・講座・事業の現状と分析」を章立ての中に組み入れている。市民館の方で過去から今年度までを含めた現状について出してもらいたい。市民・参加者の声を拾ったアンケート等があると思うが。

事務局 全ての事業に当てはまる「共通アンケート」はあるが、あとは自由記述の細かいところをどれだけ拾えるかとなるが、見てみないと分からない。

夏井委員 全ての事業ではなく、青少年事業など、幾つかに特化しても良い。特徴的な学びについてのアンケート結果から代表的な意見を拾えば。「謎走中」のように中学生・高校生が企画提案者になっていくなど、次に繋がる事例が大事なので、良い点、悪い点含めて出してもらって課題の抽出、解決を図れば良い。

事務局 サブタイトル「人・つながり・地域づくりを進める幸市民館」に寄せた事業の特徴的なものを挙げていきたいと思う。

片岡委員 専門部会では市民館の課題を抽出するところまで出来れば良い。課題の解決、対策を行うのはまた別で、専門部会ではそこまでやるものではない。課題を見つけるのが今回の調査目的である。課題が何か分からないというのが市民館事業の将来が見えにくいところだと思う。課題を考えるだけでも大変なことだと感じている。課題が立てば自ずと対策も見えてくる。市民と市民館の課題をどう重ねていくか見えてくれば今回の目的は達成されたものではないかと思う。

大塚委員 本日の話を整理すると浦山議長が中心となって夏井委員、片岡委員、市民館に確認を取りながら、章立ての中で一旦まとめてもらう。それを次回の部会で議論

して、各章の分担を決めていくという流れで良いか。

浦山委員 それで良いと思う。夏井委員が章立てしてくれたものをベースにしながら各委員の今回の意見を入れ込んでみる。

大塚委員 まとめてもらったものをみて、また皆で議論できれば。得手不得手な分野が各々あるので、そこは相談しながら進めていきたい。

5 その他

次々回の日程調整を行い、以下の通り決定した。

次々回日程について、12月11日（月）午後2時（幸市民館 第1会議室）

※次回日程は9月25日（月）午後2時（幸市民館 第1会議室）

6 閉会